

石峰&抱月のふるさと『波佐まるごと博物館』

波佐ネット通信

No. 224 2023.2.21

地域研究センター協議会

【参加団体】

西中国山地民具を守る会

波佐文化協会

能海寛研究会

ほたる湯館G・ゴルフ場

変わってきた人々の暮らし

2月21日(火)に雲城小学校3年生19名が、金城民俗資料館を訪れ校外学習を行ないました。9時50分から、波佐まちづくりセンターで、パワーポイントによる「変わってきた人々の暮らし」の映像視聴による学習後、10時30分から会場を金城民俗資料館に移し、民具を見学しました。各自が興味ある資料をタブレットで撮影し、熱心に資料確認に取り組みました。



「黒韋威胴丸」 残欠を現地確認

東京都在住、甲冑の研究者の豊田勝彦氏が、予てより注目されていた甲冑の現地確認を2月21日(火)に、保管先の浜田市金城歴史民俗資料館を訪問され「黒韋威胴丸」の残欠と対面されました。

豊田氏曰く「草摺と胴体の一部の残欠。右脇で開閉する胴丸」であることが判明した。これだけの残欠で全体の大きさも推定できるとのこと。完成後に改変の跡が無く、大変貴重な残欠との評価を受けました。時代は南北朝後期頃の製作で、常磐山八幡宮へ奉納した人物は、一国の領主に匹敵する人物であると話された。今後、古文書などで追跡調査をする必要があります。



写真左から豊田勝彦氏。中は甲冑の丈が判る資料。右は黒韋威胴丸の残欠(南北朝時代)。